

## 「平成28年9月1日～平成30年8月31日までに当科を受診される方へ」

「糖尿病内科外来における問診票（GERDスケールとSDSうつ状態評価表）の有効性」へのご協力をお願い

研究機関名：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

研究機関長：那須 保友

研究責任者：岡山大学病院 総合内科 教授 大塚 文男

研究分担者：岡山大学病院 総合内科 助教 小比賀 美香子

岡山大学病院 総合内科 医員 長谷川 功

岡山大学病院 地域医療人材育成講座 教授 片岡 仁美

### 1. 研究の意義と目的

胃食道逆流症やうつ状態は最近増加傾向であり、これらの病気は糖尿病とも関連があると言われています。これらの病気を疑った場合には専用の問診票を用いることで早期診断や治療効果判定に役立つと言われています。糖尿病内科をはじめ受診される患者さんに対しても、これらの問診票を利用することで診断の補助や診療の円滑化に役立つことが期待されますが実際にはわかっていません。

本研究の目的は、胃食道逆流症とうつ状態の問診票が糖尿病内科外来にとって役立つかどうか、問診票の点数と患者さんの診断名や経過との関連性があるかどうかを調べることです。

### 2. 研究の方法

1) **研究対象**:岡山大学病院総合内科および岡山市立市民病院の糖尿病内科の外来に受診された患者様

2) **研究期間**:平成28年9月1日～平成31年2月28日（登録期間は平成30年8月31日まで）

収集したデータは10年間保存後破棄します。

3) **研究方法**:

岡山大学病院総合内科および岡山市立市民病院糖尿病内科の外来に初めて受診された患者様全員に胃食道逆流症とうつ状態の問診票を配布して、記入していただきます。

通常の診療が終了した後カルテの調査を行い、以下のような情報を集めます。

①年齢 ②性別 ③主訴 ④症状出現から受診までの期間 ⑤現在かかっている病気

⑥上部消化管内視鏡施行(胃カメラ)の有無・時期 ⑦胃カメラの所見 最終診断

⑧検体検査結果(血液・尿・組織など) ⑨画像検査所見(レントゲン、CT・MRIなど) ⑩最終診断

⑪治療 ⑫転帰(病気の結果がどうなったか。治癒・軽快・不変など。)

問診票の点数と集めた情報との関連を調べます。

4) **調査票等**:

胃食道逆流症の問診票は「FSSG」というもので、関連症状の頻度を点数化することができます。

うつ状態の問診票は「SDS」というものであり、うつ状態を自己評価し点数化することができます。

5) **情報の保護**:

患者さんのカルテから収集した情報は、個人が特定できない状態で取り扱いますので、個人情報漏えいすることはありません。学会や論文等で発表する際にも、名前が特定できないように配慮します。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成30年9月30日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様へ不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先> 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学分野 大学院生（医師）  
岡山市立市民病院 糖尿病内科 本多 寛之 電話:086-737-3000

## 共同研究機関

この研究に使用する情報は、以下の共同研究機関からも提供していただいております。提供に際しては、氏名、生年月日などの、あなたを直ちに特定できる情報はすでに削除されている状態となっております。

### 共同研究機関 研究責任者：

岡山市立市民病院 糖尿病内科 医員 本多 寛之

### 共同研究機関 研究分担者：

岡山市立市民病院 総合内科 主任医長 岸田 雅之

岡山市立市民病院 肝臓内科 主任部長 能祖 一裕

岡山市立市民病院 糖尿病内科 部長 安藤 晋一郎

岡山市立市民病院 糖尿病内科 医員 浜原 潤

岡山市立市民病院 総合内科 医長 寺見 隆宏